

出資法人等経営状況報告書

1 作成年月日及び担当部署

作成年月日	令和2年8月25日	担当部署	産業観光交流部 施設経営管理室
-------	-----------	------	-----------------

※以下は令和2年3月31日現在の内容です。

2 法人等の概要

法人名	株式会社 みなもとの郷		
代表者	代表取締役 内藤 潔		
	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤	<input type="checkbox"/> 非常勤	<input checked="" type="checkbox"/> プロパー <input type="checkbox"/> 市兼務 <input type="checkbox"/> その他
所在地	新潟県上越市吉川区坪野 1458 番地 2		
設立年月日	平成 12 年 2 月 9 日		
資本金	10,000 千円	市出資割合	51.0%
設立目的	吉川区源地域を中心とした中山間地の産業振興を目的に市の所有若しくは管理する不動産及び入浴施設その他の施設の管理運営を行うため。		
主な事業	(1) 吉川スカイトピア遊ランドの管理運営 (2) 吉川緑地等利用施設の管理運営 (3) 吉川地域バス運行事業の運行業務委託 (4) 吉川観光協会の事務受託 (5) 尾神岳スカイスポーツエリア運営委員会の事務受託		

3 役員数

(単位：人)

	常勤	非常勤	計	内訳		
				プロパー	市兼務	その他
取締役	1	5	6	6	0	0
監査役	0	1	1	1	0	0
計	1	6	7	7	0	0

4 職員数

(単位：人)

	計	内訳	
		プロパー	市兼務
正社員	2	2	0
その他	27	27	0
計	29	29	0

5 事業実績（概要）

【第21期（令和元年度）の事業報告】

- ・ 第21期の売上高は、前期と比較して1,838千円減（3.9%の減）の44,998千円となりました。自主イベントの開催、ホームページ等を活用したPR活動による利用者数の増加や道の駅直売店の物販売上の増加に努めたものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響などにより、売上高が減少しました。
- ・ 売上原価は、材料価格の値上りなどにより前期と比較して258千円増（2.3%の増）の11,251千円となり、販売費及び一般管理費では経費削減に努めたものの、前期比322千円増となりました。
- ・ この結果、最終的な当期純利益は△558千円となり、503千円の累積欠損金を抱えることとなりました。

【取組内容】

- ・ 尾神地区の自然や歴史、文化を活かした誘客活動と都市交流事業の推進
- ・ 上越市域、柏崎市域を視野に入れた体験事業の拡充
- ・ 地産地消を心掛けた料理の提供等によるサービスの向上

【施設の利用実績】

○ 吉川スカイトピア遊ランド

（単位：人）

		第19期		第20期		第21期	
		目標	実績	目標	実績	目標	実績
宿泊		1,510	1,616	1,560	1,687	1,650	1,530
休憩（食堂）		4,350	4,834	4,500	5,103	4,300	4,461
体験交流センター	入館者（入浴）	2,300	2,545	2,400	2,734	2,600	2,734
	体験者	690	734	740	421	750	489
小計		8,850	9,729	9,200	9,945	9,300	9,214

- ・ 第21期の利用者数は9,214人となり、前期と比較して731人の減（7.4%の減）となりました。このうち、宿泊の利用者数は1,530人となり、前期と比較して157人の減（9.3%の減）となりました。

○ 吉川緑地等利用施設

（単位：人）

		第19期		第20期		第21期	
		目標	実績	目標	実績	目標	実績
見はらし荘		1,030	725	1,140	697	900	454
スポーツスライド		800	962	840	495	1,000	580
キャンプ場		20	52	20	55	（休止）	
小計		1,850	1,739	2,000	1,247	1,900	1,034

- ・ 第21期の利用者数は1,034人となり、前期と比較して213人の減（17.1%の減）となりました。このうち、スポーツスライドの利用者数は580人となり、前期と比較して85人の増（17.2%の増）となりました。

6 財務状況（税抜）

（単位：千円）

項 目		第 19 期	第 20 期	第 21 期
		自 平成 29 年 4 月 1 日 至 平成 30 年 3 月 31 日	自 平成 30 年 4 月 1 日 至 平成 31 年 3 月 31 日	自 平成 31 年 4 月 1 日 至 令和 2 年 3 月 31 日
損益計算書	売上高	45,499	46,836	44,998
	売上原価	10,451	10,993	11,251
	売上総利益	35,048	35,843	33,747
	販売費及び 一般管理費	35,036	35,773	36,095
	営業利益	12	70	△2,347
	営業外収益	74	73	1,859
	営業外費用	0	0	0
	経常利益	85	143	△488
	特別利益	0	0	0
	特別損失	0	0	0
	税引前当期純利益	85	143	△488
	法人税等	70	70	70
当期純利益	15	73	△558	
項 目		平成 30 年 3 月 31 日現在	平成 31 年 3 月 31 日現在	令和 2 年 3 月 31 日現在
貸借対照表	資 産	12,847	13,089	13,301
	負 債	2,865	3,034	3,804
	純資産	9,982	10,055	9,497
	資本金	10,000	10,000	10,000
	利益剰余金	△18	55	△503
その他	0	0	0	

※ 金額については、千円未満を四捨五入して表示しており、端数処理の関係上、決算書及び計算結果と一致しない場合があります。

7 市からの財政支出等

(1) 委託額 (税込)

(単位：千円)

内訳		平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
①	吉川スカイトピア遊ランド指定管理委託料	2,533	2,666	2,367	
②	吉川緑地等利用施設指定管理委託料	1,960	1,960	1,467	
③	吉川地域バス運行業務委託料	4,552	4,577	4,212	
計		9,045	9,203	8,046	

(2) 財政援助額 (税込)

(単位：千円)

内訳		平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
①	補助金 (助成金)	0	0	1,793	指定管理減収補填金
②	貸付金	0	0	0	
③	損失補償	0	0	0	
④	債務保証	0	0	0	
⑤	その他 (補填金)	205	240	257	シニアパスポート減免補填分
計		205	240	2,050	

8 今後の経営計画等

(1) 次期事業計画

【事業計画】

第22期(令和2年度)は、新型コロナウイルス感染症拡大の動向を確認しながら、次の事業展開を図るとともに、国県等の支援策を積極的に活用し、経費の削減に努めることとする。

- ① 棚田オーナー事業やそばオーナー事業など各種交流事業を展開し、誘客を図る。
- ② 各種パラグライダー大会を開催し、スカイスports愛好家を介したPR活動に努める。
- ③ 農業体験や田舎体験、その他各種体験事業を展開し、地域との連携を深め、誘客を図る。
- ④ 「山菜祭り」などの各種イベントを企画・開催し、年間を通じた施設の利用を促す。
- ⑤ 接客サービスの拡充に努めるとともに、経費削減に取り組み、経営改善を図る。

【集客目標】

(単位：人)

吉川スカイトピア遊ランド		吉川緑地等利用施設	
宿泊	1,650	見はらし荘	900
休憩(食堂)	4,300		
体験交流センター	入館者(入浴)	スポーツスライド	1,000
	体験者		
合計		合計	1,900

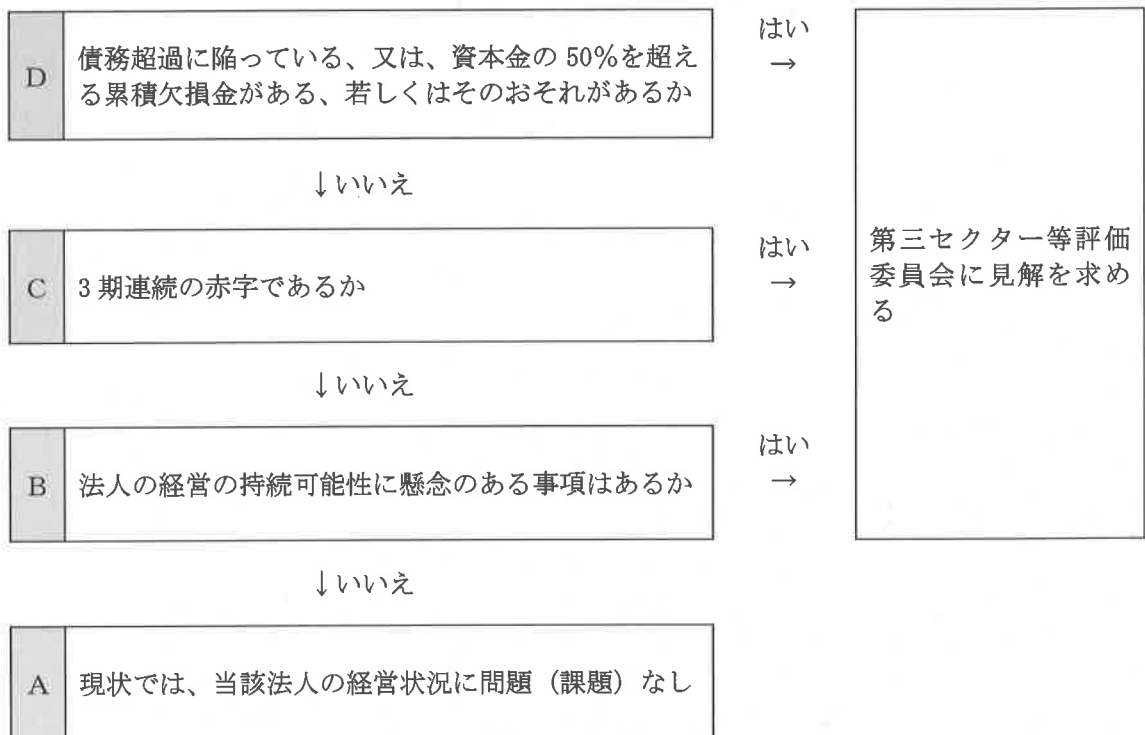
(2) 中長期経営計画

なし

9 経営状況の分析・評価

(1) 第三セクター等の経営状況の分析・評価のフローチャート

※「第三セクター等に対する関与方針」から抜粋



フローチャートによる評価基準		備考
A	経営状況に問題（課題）なし	引き続き経営努力を行う
B	法人の経営の持続可能性に懸念がある	経営健全化の可能性について、第三セクター等評価委員会に見解を求める
C	当期純利益が3期連続の単年度赤字である	
D	債務超過に陥っている、又は、資本金の50%を超える累積欠損金がある	

フローチャートによる評価	A	→ BからD評価の法人は(2)へ
【特記事項】		

(2) 第三セクター等評価委員会の分析・評価

第三セクター等評価委員会の評価
<input type="checkbox"/> 課題あり <input type="checkbox"/> 課題なし
第三セクター等評価委員会の分析
【上記評価の理由】
【その他指摘事項等】

(3) 分析・評価結果を受けての対応方針

第三セクターによる対応方針
市担当部署による対応方針

第21期 営業報告書

株式会社 みなもとの郷

概況等

- (1) 当社は、上越市吉川区尾神岳観光エリアに位置する地域活性化拠点施設である中核的な吉川スカイトピア遊ランド並びに吉川緑地等利用施設の管理運営を主体として、吉川地域バスの運行業務や尾神岳スカイスポーツエリアの管理運営、加えて吉川観光協会や顕法寺城址で狼煙を上げる会、水源地域振興対策協議会、尾神岳ファンクラブ、吉川おどり隊の事務局を担い、地域の諸課題に向き合い積極的に各種事業等を展開しながら、雇用の場の創出と地域の活性化に寄与することを重点目標とした経営に努めています。

山間地で積雪が多いという厳しい立地条件や交通アクセスにも恵まれず地域の過疎化・人口の高齢化が急速に進む中、役職員一丸となった営業努力と経費削減に取り組みながら安定経営を目指して頑張っています。

特に今期は、まれにみる暖冬と少雪に恵まれ本年2月までの売上げが好調で3月の団体予約も多く例年以上の経営の好転を期待していました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症問題が発生し2月後半から当地域にも大きな影響を与え、遊ランドにとっても3月の予約がほとんどキャンセル、新規予約も一切停止の状況に追い込まれてしまい、遊ランドの収入が半減してしまいました。

市と協議の結果、施設の管理協定に基づき相応の補填を受けたものの、お客様の無い状況に合せた在庫整理等も行ったため今期の決算では若干の赤字をまぬがれることが出来ませんでした。

- (2) 本年2月までは従来どおり、豊かな自然や地域の歴史・文化を活かしながらの誘客に力点を置き、都市交流事業の推進や近年取り組みを始めたゲートボール大会の誘致、長峰道の駅へのアンテナショップを通じたPRなどの成果に加え、地産池消に心掛けた料理の提供や接客サービスの向上を目指して進め、リピーター率が着実に向上してきているものと考えています。

また、スカイスポーツ基地としての尾神岳エリアでは、例年の5回のパラグライダー大会を始め、山の上コンサートや尾神そばのイベント等を契機に当エリアの振興に配慮した経営にも努めてきました。

一方、地域バス運行業務や関係諸団体の事業等も順調に推移してきました。

(3) 取締役会の開催につきましては、課題等が生じた場合にのみ必要に応じて開催することとし、定期的開催は行わないこととしています。

急を要する場合は持ち回り協議等に対応させていただくこととしていますが、当期はその必要もなく前期の株主総会以降9月23日、12月26日、4月11日、6月1日と4回開催いたしました。

(4) ① 今期（令和元年度）の営業収益（売上高）は、44,998千円となり、当初計画の年間売上高（44,600千円）を上回り目標は達成しました。

しかしながら、前期営業収益（売上高）との比較では1,838千円の減（約3.9%の減）となっており、本年3月のコロナ禍により売上高を大きく引き下げたのが主な要因となっています。

② 営業費用は、サービスの低下とにならないように人件費や燃料費等の抑制に引き続き努めながらも47,346千円となり、営業収益（売上高）を大きく上回る数値となりました。

③ 当期は、(1)で記述のとおり市の補填金（1,793千円）を雑収入で受け経常損失が488千円となり、税引後の当期純損失が558千円となったところであります。

決算報告書

(第 21 期)

自 平成 31 年 4 月 1 日
至 令和 2 年 3 月 31 日

榑みなもとの郷

新潟県上越市吉川区坪野1458番地2

貸借対照表

令和 2 年 3 月 31 日現在

単位 円

資 産 の 部			
【流動資産】			
現金及び預金	6,598,280		
売掛金	479,750		
商品	1,741,448		
未収金	369,018		
仮払金	35,500		
流動資産合計			9,223,996
【固定資産】			
(有形固定資産)			
建物	2,707,174		
建物附属設備	678,068		
機械装置	215,072		
車両運搬具	1		
工具・器具・備品	104,463		
構築物	136,632		
有形固定資産合計	3,841,410		
(投資その他の資産)			
出資金	1,000		
投資その他の資産合計	1,000		
固定資産合計			3,842,410
【繰延資産】			
開業費	234,253		
繰延資産合計			234,253
資産の部合計			13,300,659
負債の部			
【流動負債】			
買掛金	141,730		
未払金	575,321		
未払費用	2,173,851		
未払法人税等	70,000		
未払消費税等	650,400		
預り金	192,680		
流動負債合計			3,803,982
負債の部合計			3,803,982
純資産の部			
【株主資本】			
(資本金)			
資本金	10,000,000		

	資本金合計	10,000,000	
(利益剰余金)			
繰越利益剰余金		△503,323	
	利益剰余金合計	△503,323	
	株主資本合計		9,496,677
	純資産の部合計		9,496,677
	負債及び純資産の部合計		13,300,659

損 益 計 算 書

自 平成 31 年 4 月 1 日
至 令和 2 年 3 月 31 日

単位 円

【純売上高】			
売上1 (遊ランド)	37,336,660		
売上2 (見晴し・ポプル)	2,096,860		
売上3 (地域バス)	4,212,091		
売上4 (道の駅)	1,353,510		44,998,121
【売上原価】			
期首商品棚卸高	2,145,648		
仕入1 (一般)	10,499,140		
仕入3 (道の駅店)	347,337		
合計	12,992,125		
期末商品棚卸高	1,741,448		11,250,677
売上総利益			33,747,444
【販売費及び一般管理費】			36,094,764
営業損失			2,347,320
【営業外収益】			
受取利息	31		
雑収入	1,858,823		1,858,854
経常損失			488,466
税引前当期純損失			488,466
法人税、住民税及び事業税			70,000
当期純損失			558,466

販売費及び一般管理費

自 平成 31 年 4 月 1 日
至 令和 2 年 3 月 31 日

単位 円

荷	造	運	賃		17,600
給	与	賃	金		22,025,999
法	定	福	費		1,117,378
福	利	厚	課		480,613
租	税	公	費		1,290,482
水	道	光	熱		4,640,002
通	信		費		539,331
広	告	宣	伝		93,081
接	待	交	際		88,000
損	害	保	險		161,882
修		繕	費		630,240
消	耗	品	費		1,168,604
減	価	償	却		454,883
支	払	手	数		1,130,271
車		両	料		920,938
リ	一	ス	料		105,800
諸		会	費		122,185
設	備	保	守		462,778
環	境	衛	生		560,060
雑			費		84,697
					36,094,764

販売費及び一般管理費

36,094,764

株主資本等変動計算書

自 平成 31 年 4 月 1 日
至 令和 2 年 3 月 31 日

単位 円

	株主資本				株主資本合計	純資産合計
	資本金	利益剰余金		利益剰余金合計		
		その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金			
当期首残高	10,000,000	55,143	55,143	10,055,143	10,055,143	
当期変動額						
当期純損益金		△558,466	△558,466	△558,466	△558,466	
当期変動額合計		△558,466	△558,466	△558,466	△558,466	
当期末残高	10,000,000	△503,323	△503,323	9,496,677	9,496,677	

個 別 注 記 表

自 平成 31 年 4 月 1 日
至 令和 2 年 3 月 31 日

I. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

資産の評価基準及び評価方法

 たな卸資産の評価基準及び評価方法

 最終仕入原価法を採用しております。

固定資産の減価償却の方法

 定額法又は旧定額法及び定率法又は旧定率法を採用しております。

会計処理の原則又は手続の変更

 消費税の会計処理は税込方式を採用しております。

II. 貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額

8,756,784円

監査報告書

第21期決算監査の結果、貸借対照表、損益計算書および利益処分について、いずれも適法かつ正確であることを認めます。

令和2年6月1日

株式会社みなもとの郷

監査役 中 村 久 人



第22期 事業計画並びに収支計画について

株式会社 みなもとの郷

1. 当社の経営は、山間地に存するという立地条件や行き止まりという道路条件の不便さ、加えて積雪が多く、過疎化・人口の高齢化が急速に進む中、役職員の協力のもと営業努力と経費削減に努め地域活性化の中核会社と位置付け、諸事業等の持続を第一義に考え進めて参ります。

2. 緑地施設の管理や地域バスの運行業務、道の駅直売店の運営、吉川観光協会の事務、尾神岳スカイスポーツエリアの運営、等々に加え中でもスカイトピア遊ランドが市の指定避難所を兼ねた指定緊急避難場所として指定されていること等を鑑み、地域住民の安全・安心にも配慮するなど、引き続き地域の諸課題にも対応しつつこれまでの事業を参考に各種事業等を積極的に展開し、雇用の場の創出と地域の活性化を図りながら地域福祉の向上にも貢献していきます。

3. 世はまさに「コロナ禍」が蔓延し「新しい生活様式」が求められる中、世界や日本がどうなっていくかなどは、まったく予想がつかない現状にあります。

こうした中ではありますが、中心施設の遊ランドにおいては地域活性化の拠点施設としての位置付けを忘れることなく、今期は次の第23期につなぐ年として当社の経営についても^{ゼロ}ベースから真剣に検討し事業の持続化に取り組んでいきます。

従って、今回は個別の事業等についての記載を割愛いたします。

4. 収支計画については、遊ランドで4月14日から5月31日まで臨時休業を行い、緑地施設の開業が6月6日とするなど、「コロナ禍」がどこまで影響するか見通しが立たないため、現時点では収入計画を立てることが困難であります。

また、支出についても収入が見込めないことを考慮し、必要最小限の支出に努めていきます。

いづれにしても、コロナ禍に係る国・県の支援策等を積極的に活用するとともに、地道にリピーターが戻ってくれることを願いながら、常に市との協議・連携を深め事業の持続化に尽力して行きます。

従って、数値を推計することが困難であるため今回は数表での計画書は割愛いたします。